

## 職員像

### 理想の職員にどう育てる

### 能力生かす環境改善に努力



**問** 大西町政2期目となり、副町長も代わられた。今期の黒潮町政の目指す、地域から信頼される職員の姿をどのように考えているか。

**答** 松田 副町長

職員一人一人がコミュニケーション能力を身につけ、プロ意識を持ち、蓄えた知識の上で適切なアドバイスができるようになり、地域の現状の把握、課題認識とその課題解決に向かって実行できる職員となることが求められる。

**問** その職員を育てるためには、環境改善が必要ではないか。また、少し荷が掛かり過ぎているところはないか。

**答** 大西町長

現在、業務量と人員のバランスが崩れており、大変苦勞を掛けている職場が多数存在しており、それによって住民サービスの提供能力が低下することに大変危機感を有している。

人口減、産業の疲弊、環境の変化のなか、給与削減、職員定数削減を進めている状況だが、職員は、驚くような住民の皆さまの参加をいただいた700回近いワークショップや防災活動を行った結果、取り組みを始める前と現在とは随分変わってきたと思っている。さらに、県庁へお邪魔をさせていただくと、福祉、

防災、さまざまな部署から「事務レベルで精度の高い政策提言ができています」と組織のトップから評価をいただく。こういったことも職員のスキルアップの一つの証しと考えている。

執行機関としては、今伸びつつある芽を大事にしながらプロ意識を育て、住民の皆さんに喜んでいただけたことを職員間で共有し、明日からの事務作業へのモチベーションとする組織にならないといけないと思っています。

**問** 組織のリーダーとしての課長のスキルアップが、職員を育てるために大事ではないか。

また、地方分権が言われ行革が進められた結果、職員数の削減が成果のように言われるが、町政としてやらなければならないことに必要な人員は確保し、仕事が回る環境がなければ、結果は町民のためにならない。町民のために一生懸命働く職員は地域の宝だ。

産業建設常任委員会でも必要な専門職を雇うべきだとの意見も出ている。職員が十分自分のスキルを発揮できる環境、風通しのいい職場づくりには職員を雇うことも必要ではないか。

**答** 大西町長

町は、特異な環境の中で、積極予算を消化している。課長は事務作業量も増え、課の

職員の管理がおろそかになってくる。1期目の4年間の政策で業務量と人員配置のバランスを欠いている。これは、自分たちの責任でしっかりと管理をしていかなければならないと思っています。



親しみやすさが求められる町役場